

第2章 美保関地区の概要

資料1-3

節	節題	項	項題	記述内容	執筆者
第1節	地理的環境	第1項	地理的環境と生業	島根半島における美保関地区の位置と漁業・加工業・ハゼ木栽培などの生業(近世を中心として)	事務局（錦織）
		第2項	地質的環境	古浦層と森山石(緑色凝灰岩)とこの地区での森山石の活用	事務局（錦織）
		第3項	美保関地区の町並み	近世の町並みを現在も継承し、その中に信仰が浸透している美保関地区(伝建地区と文化的景観)	事務局（錦織）
第2節	歴史的環境	第1項	古代	美保神社境内の祭祀遺跡、佛谷寺の短甲とヤマト王権の関係(海人族)、源義親事件	事務局（錦織）
		第2項	中世	後鳥羽上皇と後醍醐天皇、戦国時代と美保関争奪戦	事務局（錦織）
		第3項	近世	港の繁栄と困窮、松江藩と美保関地区と美保神社(棟札に現れる當人)	事務局（錦織）
		第4項	近現代	明治期の港の繁栄と衰退、陸上交通の発展、美保関地区を訪れた文人たち	事務局（錦織）
第3節	美保神社の概要	第1項	大正期以前の美保神社(近世を中心として)	出雲太守吉川廣家の普請棟札とそれ以降の普請	事務局（錦織）
		第2項	大正期の大改修とそれ以後の美保神社	境内拡張とその後の様々な改修事業	事務局（錦織）
第4節	社会組織と年中行事	第1項	四つの小路と自治会	基本的な社会組織	中野委員
		第2項	各小路のトウヤ	歳神祭祀のトウヤの選任と役割	中野委員
		第3項	美保関の一年と二つの大祭	年中行事の概要および青柴垣神事と諸手船神事の位置を確認	中野委員
		第4項	歳神祭祀と籠り行事	子どもの天神祭含む正月行事	中野委員
		第5項	小宮の祭祀とレンゲ	美保神社に関係する小宮祭祀と漁業者と美保神社とのつながりを示すレンゲついて	中野委員
		第6項	寺院と祖先祭祀	紙幅の関係で削除するかもしれません	中野委員

第3章 祭祀組織と美保神社

節	節題	項	項題	記述内容	執筆者
第1節	蒼柴垣神事の祭祀組織	第1項	當屋組織	(一) 仕組 (二) 精進潔斎・禁忌 (三) 衣装 (四) 地区内親戚 (五) 祭祀空間の変化(頭人宮・神事会所) (六) 組織を取り巻く状況(①人口減少、②希望者減少、③通婚圏の変化 ④新型コロナ流行)	喜多村委員
		第2項	青柴垣神事の當屋	(一) 一の當屋・二の當屋(①當指 ②當屋の務め・・・) (二) 青柴垣神事(第四章の時系列的記述とは異なり、体験者からの聞き取りを参考にして記述する)	喜多村委員
		第3項	客人當屋・休番・上席休番	(一) 客人當屋 (二) 休番と上席休番	喜多村委員
		第4項	頭人	(一) 新旧の交替(①習い始め、②オコワと食膳 ③宮遷り ④ヨボシギ、⑤納めの神楽 ⑥秘法改め ⑦見参神楽 ⑧オシメカケ) (二) 頭人の務め(①頭人宮祭祀一図・年間の供膳・神事と正月の注連 ②日参 ③青柴垣神事(頭人に焦点をあてる記述) ④エビス祭と月次御幣 ⑤神迎神事とイモ膳 ⑥虫探神事とイモ膳、⑦諸手船神事 ⑧幸魂社祭・稻荷社初午	喜多村委員
		第5項	座の儀礼	座順(図)・亭主役と亭主役助手・膳の内容・振舞主・テゴニン(総振舞、新當屋の挨拶、青柴垣神事直会、ヨボシギ、頭人新旧交代、神迎え神事の神迎え後・直会、虫探神事後、客人社祭直会、諸手船神事直会) 基本的所作の伝承	喜多村委員
		第6項	神楽と當屋組織	(一) 見参神楽・神楽参籠・神楽納め	喜多村委員
		第7項	扶助	(一) 奉賛会 (二) その他	喜多村委員
第2節	神社祭祀と祭祀組織の関わり	第1項	神社を支える氏子	氏子域と氏子会、當屋組織	喜多村委員
		第2項	神職・巫女・神社職員		喜多村委員
		第3項	旧ミコ筋の家	(一) ミコに関する史料 (二) ゴクウ・甘酒造り・諸手船神事直会	喜多村委員
		第4項	年間祭事と當屋組織	神社の年間祭事の中で當屋組織が関与する祭事がどの程度あるのか一覧にする。 (當屋組織が関与する以下の祭事を簡潔に記述) 歳旦祭、日供祭、元始祭、神楽始め、エビス祭、爆竹式、節分祭、紀元祭、祈年祭、例大祭と蒼柴垣神事、魚幸祭、神迎神事、6月の大祓式、虫探神事、敬老祭・氏子祭、客人社祭と諸手船神事、大祓式と神楽納め	喜多村委員
第3節	祭祀組織と信仰の様相	第1項	はじめに	諸国周遊奇談、出雲鞆に見る頭人の位置づけ →近世においては周辺の人々からの信仰の対象であった可能性 →遅くとも17世紀半ば頃には、現在の諸神事の基本的な枠組みと頭人以下の祭祀組織は成立	品川委員

		第2項	近世における頭人の呼称の問題	神社側においては二宮頭と記載されることが多いが、17世紀頃には（一年）神主の表現も見られる →18世紀半ば頃、横山家が白川家に入門し、裁許を得たものが祈祷等を行える「神主」であり、所謂頭屋は祭礼の「願主」に過ぎないという理解 一方、氏子側、地誌類などでは頭人を「神主」とする記載はその後垣間見られる 呼称の変化はあるにせよ、神社側においても、頭人は二ノ御前に関わる存在という意識は継続する	品川委員
		第3項	近世における頭人の機能	安永年間、文政年間に頭人が参詣者に守札を配布することを神社側が禁止した史料を中心に、近世の頭人の機能を推定 →少なくとも文政年間までは、参詣人に対して糰、榊、縁起、（美保神社を含む）守札などを（神楽銭などを受けて）配布する存在、逆に言えば、そのような存在として航行の安全だけではなく、豊作等を司る存在として参詣人からの信仰を集めていた 附（配布される糰、榊の位置づけ） →文政年間に守札の配布が神社側に禁じられた後も、二ノ御前に関わる存在という理解は神職側においても継続 →（可能なら、なぜ田がほとんどない美保関の美保神社に対して稲作に関する信仰が広く見られるのか??） 頭人に対する信仰の一端を、頭人が一年間に美保関の人々、参詣人から受け取った初穂料・神楽銭などから類推（米55斗、正銭80貫程度） →実際、美保関の人々以外からも多くの神楽料・初穂料を集めていた（文政年間に守札の配布を禁じる代わりに、神社から10貫文また切札?300枚が渡されるようになった） 明治29年の當屋の神船への奉納（寄付金）を通じて、近世末頃の美保神社の信仰圏の類推 附（頭人の信仰対象としての頭人宮）	品川委員
		第4項	近世における氏子側の祭祀組織と神社	神迎神事と頭人 宮人衆としての頭人 人別される神職 神職家には霜月祭の寄附帳のみが残される意味 諸手船神事における一の御船の御船番と神職の問答 一の御前側と二の御前側の平行な祭祀構造 →世襲神職家は大御前、頭人は二の御前の神主として相互依存的な関係にあった また資料から判断する限り、かつては世襲神職家の神主と頭人が対等な立場で諸神事に関わっていた可能性	品川委員
		第5項		18世紀以後、徐々に頭人の神主としての役割は制限され、明治になってさらに社用係と位置づけられることにより、その機能の大部分を神主の機能を世襲神職家が果たすようになる →直接的な表現はもちろん避けますが・・・ 頭人不在の問題 サステナブルかつこれまでの伝統を生かした形での継続を期待したい （以下、後考を待ちたいとして、ただ現状、さすがに根拠レス） ・祭神の記載順の問題（頭人の機能が世襲神職家に移る過程と平行か?） →直接的な表現はもちろん避けますが・・・ ・それに伴い近代になって、頭人の機能の一部が當屋に移されたか（御船寄附蝶、蝶形の扇）	品川委員

第4章 蒼柴垣神事と諸手船神事の現在と変遷

節	節題	項	項題	記述内容	執筆者
第1節	青柴垣神事の現在	第1項	蒼柴垣神事協議会	3月初旬 参加者、内容説明、進行など	事務局（松尾）
		第2項	役人揃いの儀	3月23日	事務局（松尾）
		第3項	人別下調べ	3月28日	事務局（松尾）
		・・・	・・・	・・・	事務局（松尾）
		第●項	新頭人見参の神楽	4月12日	事務局（松尾）
第2節	諸手船神事の現在	第1項	諸手船神事協議会	11月初旬 参加者、内容説明、進行など	事務局（松尾）
		第2項	地主社祭宵祭	11月27日	事務局（松尾）
		第3項	地主社祭	11月28日	事務局（松尾）
		第4項	諸手船の移動	11月30日	事務局（松尾）
		第5項	甘酒仕込み	〃 (1)客人當の甘酒、(2)美保神社の甘酒	事務局（松尾）
		・・・	・・・	・・・	事務局（松尾）
		第●項	一度祭	12月4日	事務局（松尾）
第3節	他の特殊神事の現在	第1項	神迎神事	5月5日	事務局（松尾）
		第2項	虫探神事	8月7日	事務局（松尾）
第4節	美保神社諸神事の変遷		宮移り、引継ぎ	以下、特記部分を除いて、基本的に寛文年間、延享年間、寛政年間、明治19、昭和13、銭後（和歌森報告）、昭和40年代（石塚報告）、平成7年及び9年、平成15年及び16年の調査と現在との比較・変化を（美保関新聞の記載も参考にしながら）記載（祭礼日の変化を含む）、その限りにおいて神事奉賛会などとの関わりを記を	品川委員

			烏帽子着（附 見参の神楽・秘法改めなど）		品川委員
				芋膳の省略 引當について（喜多村先生が記載されると思うので触れる程度）	
			七日エビス	附 幸御霊社、稲荷社（あくまで頭人との関連において）	品川委員
			神迎神事	3章参照とする	品川委員
			虫探神事	面の問題（頭人宮の祭神としての位置づけ、雨乞の対象としての神面など）	品川委員
			諸手船神事	神事名の変遷	品川委員
			地主社祭		品川委員
			諸手船の準備		品川委員
			甘酒仕込み		品川委員
			．．．．．		品川委員
			御船神事	マツカの問題、一の船の御船番と宮司の祝言 船に乗る人数の変化	品川委員
			．．．．．		品川委員
			一度祭		品川委員
			神事名の変遷と神事の意味	マツカの問題、	品川委員
			青柴垣神事		品川委員
			役人揃		品川委員
			人別下調		品川委員
			トーロー		品川委員
			きり火		品川委員
			人別		品川委員
			．．．．．	（供物籠の変化も他の記載を見ながら．．）	品川委員
			御船神事		品川委員
			田楽		品川委員
			奉幣		品川委員
			御船番の舞		品川委員
			當為知相撲		品川委員
			當指		品川委員
			．．．．．		品川委員
			當指（客人當）		品川委員
			．．．．．		品川委員
			一度祭		品川委員
			頭人納めの神楽		品川委員
			神事名の変遷と神事の意味	（神の依り代としての供人、小忌人、神子、當屋） 和歌森、白石、村武などの神事の位置づけを整理 神迎神事を含め、海から神格を迎え、記念誌、一度祭で送る、という形が源流なのは、という推測	品川委員

第5章 蒼柴垣神事と諸手船神事の祭具・神饌類

節	節題	項	項題	記述内容	執筆者
第1節	蒼柴垣神事と諸手船神事の祭具	第1項	青柴垣神事の祭具	①祭器 ②装束・衣裳 ③その他	事務局（浅沼）
		第2項	諸手船神事の祭具	①祭器 ②装束・衣裳 ③その他	事務局（浅沼）
第2節	蒼柴垣神事と諸手船神事の供物	第1項	青柴垣神事の供物	①神社が調える供物 ②當屋が調える供物 ③一覧表	①喜多村委員 ②岩城委員 ③岩城委員
		第2項	諸手船神事の供物	①神社が調える供物 ②當屋が調える供物 ③一覧表 ③一覧表の内容は、蒼柴垣神事と諸手船神事の供物一括表：時系列順に供物のかかわる場面を表欄化、行事催行者の手引きになるような ①、②でキーとなる語彙を絞って拾う、大枠は第3項の表にて、というイメージ	①喜多村委員 ②岩城委員 ③岩城委員